



軽井沢スキーバス転落事故から6年。遺族の皆さんと 国交省・日本バス協会・日本旅行業界が立場を超えて 1月15日「安全・安心なバス輸送を誓う集い」が開催される!

軽井沢スキーバス転落事故の発生から1月15日で6年の月日が経ちます。今年初めて、現場で遺族だけではなく、国土交通省や日本バス協会、日本旅行業協会の職員が参加する「安全安心なバス運行を誓う集い」が開かれます。遺族の皆さんの「追悼だけではなく、より具体的な再発防止の為に立場を超えた意見交換会を開催してほしい」と望んだ願いが、実を結びました。

私たちジェイアールバス関東労働組合は、今年4月に「関越道ツアーバス事故と軽井沢スキーバス事故を考える現地踏査」を予定しています。事故の背景にある当時の「バス業界の過当競争の問題」「安価な運賃の背後にある危険な運行管理体制の問題」「運転手のへの教育・訓練の問題」「管理の受委託問題に潜むダンピング問題」などを現地で検証することをつうじて、二度とこのような事故を起こさない為に、「労働組合として何をすべきか」を遺族の皆さんや有識者の方々の意見や考え方を踏まえながら改めてこれから行動していく出発点にしていこうと考えています。

国土交通省や酒井一博氏が委員長を務める自動車事故調査委員会と遺族の皆さんの努力で85項目にも及ぶ再発防止策が出され、現在のバス業界はその努力の上に安全対策が実行されています。その再発防止策を担い、さらにバス業界の安全・安定性を高めて行くのは現場で働く私たちです。

ジェイアールバス関東労働組合は「人を大切にしない企業は人に起因する事故を必ず発生させる」というバス業界の苦い経験を教訓にして、エッセンシャルワーカーとして遺族の皆さんの心に寄り添って安全第一のバス会社を目指していきます。



昨年開催のJTSU-B「2021春闘セミナー・安全シンポジウム」にて労働科学研究所の酒井一博研究主幹から講演を受けました。

事故を風化させずに、遺族の皆さんの願いを実行に移して行こう!